(2)花き・果樹コース

①学習総括表

	科　　目		講師	単位	時間	受講計画				備　考
						1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	
講義科目	教養科目　　計			6	90					
	共通専門科目　計			44	660					
	花き園芸学		専任指導職員	2	30	○				
	果樹園芸学		専任指導職員	2	30	○				
	鉢物栽培学		専任指導職員	2	30			○		
	切花栽培学		専任指導職員	2	30		○			
	果樹栽培学Ⅰ		専任指導職員	2	30		○			
	果樹栽培学Ⅱ		専任指導職員	2	30			○		
	卒業論文		専任指導職員	4	60				○	
	コース専門科目　計 卒業に必要な単位数は16単位			16	240					
実験・実習科目	課題研究		専任指導職員	4	120		○	○	○	
	①	GAP実習	専任指導職員 専任講師	1	30	○				
	②	専門実習Ⅰ	専任指導職員	14	420	○	○			②③④⑤のいずれかを選択
	③	専門実習Ⅱ	専任指導職員	11	330	○	○			
		園芸装飾実習	非常勤講師 専任指導職員	1	30	○				
		ﾌﾗﾜｰ装飾実習Ⅰ	非常勤講師 専任指導職員	2	60		○			
	④	専門実習Ⅲ	専任指導職員	13	390	○	○			
		園芸装飾実習	非常勤講師 専任指導職員	1	30	○				
	⑤	専門実習Ⅳ	専任指導職員	12	360	○	○			
		ﾌﾗﾜｰ装飾実習Ⅰ	非常勤講師 専任指導職員	2	60		○			
	⑥	花き栽培実習Ⅰ	専任指導職員	15	450			○	○	⑥⑦⑧のいずれかを選択
	⑦	果樹栽培実習	専任指導職員	15	450			○	○	
	⑧	花き栽培実習Ⅱ	専任指導職員	13	390			○	○	
		ﾌﾗﾜｰ装飾実習Ⅱ	非常勤講師 専任指導職員	2	60			○		
	樹相診断実習		専任指導職員	1	30	○				
	病虫害と生理障害の診断実習		専任指導職員	1	30		○			
	虫発生予察実習		専任指導職員	1	30	○				
	病虫害防除実習		専任指導職員	1	30		○			
	土壌肥料実習		専任指導職員	1	30		○			
	生物工学実験		専任講師	1	30		○			野菜コース講義計画と同じ
	先進農林家等体験学習		専任指導職員	7	210			○	○	
	実験・実習科目　計 卒業に必要な単位数は47単位			47	1,410					
全　合　計				113	2,400					

※1 実験・実習科目欄の①は全員が対象、②は1年時に園芸装飾実習、フラワー装飾実習を選択しない学生が対象。③は1年時に園芸装飾実習、フラワー装飾実習を選択を選択した学生が対象。④は1年時に園芸装飾実習のみを選択した学生が対象。⑤は1年時にフラワー装飾実習のみを選択した学生が対象。

※2 実験・実習科目欄の⑥は2年時にフラワー装飾実習を選択しない花き専攻学生が対象。⑦は2年時にフラワー装飾実習を選択しない学生(果樹専攻)が対象。⑧は2年時にフラワー装飾実習を選択した花き専攻学生が対象。

花き・果樹コースで取得できる資格について

花き･果樹コースでは１年後期より花き、または果樹を選択し専攻する。フラワー装飾技能士は花き専攻学生のみ取得することができる。

園芸装飾技能士

園芸装飾技能士は、主に観葉植物（鉢物）を用いた室内装飾作業に関する知識・技能を有する者に与えられる資格である。花の装飾作業に関する実務能力を証明する資格であることから、資格取得者は園芸店等への就職時に有利になると思われる。

※本校で受験可能なのは、３級および２級（３級取得者が受験対象）である。

フラワー装飾技能士

フラワー装飾技能士は、主に生花を用いた装飾に関する知識・技能を有する者に与えられる資格である。花の装飾作業に関する実務能力を証明する資格であることから、資格取得者はパーティ会場やホテルなどの飾り付け、贈答用花束、ブライダルなど業界への就職時に有利になると思われる。

※本校で受験可能なのは、３級および２級（３級取得者が受験対象）である。

※令和元年度フラワー装飾技能士３級実技試験の課題は、「花束及びリボン制作」、「バスケットアレンジメント制作」、「ブートニア制作」の３つである。

樹木医補

本校は、財団法人日本緑化センターから樹木医補資格養成機関として認定されている。

樹木医補の資格を取得するには、次の科目の単位を必須科目として取得する必要がある。卒業後に資格申請書、成績証明書、卒業を証明するもの等を財団法人日本緑化センターに提出することにより、樹木医補認定書が交付される。なお、手続きの詳細については、財団法人日本緑化センターのホームページで確認できる。

分野別取得科目一覧

分　野　別	共通専門科目 講　　義	コース専門科目 実　　習
樹木の分類	樹木学	
樹木の生態・生理	植物生理学	樹相診断実習
立地・土壌	土壌肥料学	土壌肥料実習
植物病理	植物病理学	病虫害と生理障害の診断実習 病虫害防除実習
昆虫・動物	昆虫学 鳥獣被害対策	虫発生予察実習 病虫害と生理障害の診断実習
樹木医学一般		
農薬科学	農薬学	
造園学	造園学	

※資格取得条件は、講義は６分野７科目以上、実習は４分野４科目以上の単位を取得することで、上記の共通専門科目、コース専門科目はすべて必修となる。

②科目別講義計画

科　目	花き園芸学	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	1年前期	木曜	1時限
担　当	専任指導職員						
目　標	花き園芸の現状と花き栽培を行う上で必要な基礎知識を身に付ける。						
概　要	花き生産の抱える問題や今後の課題、花き生産に必要な成長・開花調節技術や環境管理技術、施肥管理技術等、花き栽培に必要な基礎知識を学ぶ。						
テキスト	「花卉園芸学の基礎」腰岡政二編著（農山漁村文化協会） 担当職員作成プリント						
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	『基礎』を身につけて、鉢物や切り花の理論学習、実践学習に役立ててください。						

科目内容	講義名	講義内容
	1 花き類の分類	1年草・宿根草・球根類等、分類ごとの特性
	2 花き類の生産と消費の動向	国内の生産と消費の動向、輸入花き、本県花き類の特徴と生産
	3 スマート農業による花き類の生産	情報通信技術（ICT）の活用による省力化・高品質生産技術の方法
	4 鮮度保持	鮮度保持技術の必要性とその方法
	5 栄養成長と生殖成長	生育の課程と環境要因（温度、日長等）の関わり
	6 草姿の調節技術	品質を高めるための温度管理・薬剤処理等の方法
	7 開花調節技術①	日長調節による開花期の人為的調節方法
	8 開花調節技術②	温度調節および成長調節物質による開花期の人為的調節方法
	9 土壌と施肥	土壌の条件と施肥の目的・方法
	10 病害虫防除	主要病害虫と病害虫防除のポイント
	11 繁殖と育種①	種子繁殖と栄養繁殖（挿し木・株分け等）の特徴とその方法
	12 繁殖と育種②	組織培養による繁殖方法の特徴と育種（新品種育成）の必要性
	13 温室とハウス	温室等の構造と被覆資材の特徴
	14 環境調節設備	冷暖房等、施設栽培に必要な設備とその機能
	15 養液栽培と複合環境制御	養液栽培の種類と複合環境制御の留意点

科　　目	果樹園芸学	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	1年前期	木曜	2時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	永年生の果樹では、栄養成長と生殖成長が同時に行われている。くだものつくりは、混在する2つの成長をコントロールすることにあることを学ぶ。						
概　　要	果実生産を行うためのコントロール技術（栽培管理方法）の基礎を考える。また、これからの果樹農業における防除はどうあるべきか考える。また、国際水準のGAPを学び実践することで、生産技術の習得に加え経営感覚を兼ね備えた人材を育成する。						
テキスト	「新版図集果樹栽培の基礎知識」熊代克巳・鈴木鐵男著（農山漁村文化協会） 「大判図解最新果樹のせん定」農山漁村文化協会編（農山漁村文化協会） 担当職員作成資料						
参考図書	「ひと目でわかる　果樹の病害虫第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会） 「農場管理を”見える化”し、食の安全を確保するJGAP」（日本GAP協会編著）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	果実生産について、幅広く理解することを目的に学習してください。						

科目内容	講義名	講義内容
	1 果樹の種類	果樹の分類、主要産地について
	2 群馬県の果樹栽培の現状 （アクティブラーニング）	県内での栽培状況の推移や需要の動向について
	3 果樹の一生および花芽形成の促進	栄養生長、生殖生長、C-N率の関わり
	4 果樹の生育と栽培管理①	春（発芽、開花、結実、授粉）
	5 果樹の生育と栽培管理②	夏（果実肥大、花芽分化、結果習性）
	6 果樹の生育と栽培管理③	秋（果実の成熟、養分の蓄積）
	7 果樹の生育と栽培管理④	冬（芽の休眠、寒害、凍害）
	8 土壌管理	肥料要素の役割、施肥方法、土壌改良の方法、改良資材の種類
	9 病害虫防除	(1)病害虫の種類、防除の方法 (2)農薬の種類、防除の実際
	10 栄養繁殖	苗木の生産、高接ぎの方法
	11 果樹園の開設	開園前の準備、苗木の植え付け方法
	12 整枝せん定①	整枝・せん定の意義と目的
	13 整枝せん定②	(1)樹の性質と整枝・せん定 (2)主要果樹のせん定
	14 GAP概論	(1）GAP認証の目的 (2）世界の現状 (3) 評価制度
	15 国際水準のGAP	(1)国際水準のGAP実践の意味 (2)農産物の輸出とGAP

科　　目	鉢物栽培学	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	2年前期	木曜	1時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	本県で栽培が盛んな鉢物を中心に、鉢物栽培を行うために必要な知識と技術の習得を目指す。						
概　　要	シクラメンやアジサイなど、本県の主要鉢物類を中心に、栽培の現状と課題、生理生態、栽培管理方法、開花調節技術等について学習するとともに、利用方法についても学習する。						
テキスト	「花卉園芸学の基礎」腰岡政二編著（農山漁村文化協会） 担当職員作成プリント						
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	鉢物栽培に必要な知識・技術を身につけるだけでなく、花への興味関心を深めて実践学習に役立ててください。						

科目内容	講義名	講義内容
	1 鉢物生産の特色	鉢物類の分類、生産の特色、生産資材等
	2 鉢物類の生産と消費の現状① （アクティブラーニング）	全国と本県の生産・消費動向と課題 （グループワーク（話し合い・調査））
	3 鉢物類の生産と消費の現状② （アクティブラーニング）	全国と本県の生産・消費動向と課題 （グループワーク（まとめ・発表））
	4 土壌肥料とかん水技術	用土資材の特性と用土作り、施肥方法 様々なかん水方法とその特徴
	5 シクラメン①	生産・消費の現状、生理生態、栽培のポイント
	6 シクラメン②	一般的な栽培管理方法、特徴的な栽培技術
	7 アジサイ①	生産・消費の現状、生理生態、栽培のポイント
	8 アジサイ②	一般的な栽培管理方法、特徴的な栽培技術
	9 カーネーション	生産・消費の現状や生理生態、栽培のポイント等
	10 ポインセチア	生産・消費の現状や生理生態、栽培のポイント等
	11 花壇苗①	秋冬出荷用花壇苗の生理生態や栽培のポイント等
	12 花壇苗②	春出荷用花壇苗の生理生態や栽培のポイント等
	13 その他鉢物類①	ベゴニア類の生理生態や栽培のポイント等
	14 その他鉢物類②	ラン類の生理生態や栽培のポイント等
	15 その他鉢物類③	その他県内で生産されている鉢物の栽培のポイント等

科　　目	切花栽培学	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	1年後期	木曜	2時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	本県で栽培が盛んな切り花を中心に、切り花栽培を行うために必要な知識と技術の習得を目指す。						
概　　要	バラやキクなど、本県の主要な切り花類を中心に、栽培の現状と課題、生理生態、栽培管理方法、開花調節技術等について学習するとともに、利用方法についても学習する。						
テキスト	「花卉園芸学の基礎」腰岡政二編著（農山漁村文化協会） 担当職員作成プリント						
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	切り花栽培に必要な知識・技術を身に付けるだけでなく、花への興味関心を深めて実践学習に役立ててください。						

科目内容	講義名	講義内容
	1 切花生産の特色	切り花類の分類、生産の特色等
	2 切り花類の生産と消費の現状① （アクティブラーニング）	全国と本県の生産・消費動向と課題 （グループワーク（話し合い・調査））
	3 切り花類の生産と消費の現状② （アクティブラーニング）	全国と本県の生産・消費動向と課題 （グループワーク（まとめ・発表））
	4 切り花の市場流通	切り花の市場流通の仕組み
	5 バラ①（土耕栽培）	生産・消費の現状、生理生態、土耕栽培のポイント等
	6　バラ②（養液栽培）	養液栽培のポイント、一般的な栽培管理方法、複合環境制御技術等
	7 キク類①（輪ギク）	キク類の生産・消費の現状、生理生態、輪ギク栽培のポイント等
	8 キク類②（小ギク、スプレーギク）	小ギク、スプレーギク栽培のポイント等
	9　トルコギキョウ	生産・消費の現状、生理生態、栽培のポイント等
	10 ストック	生産・消費の現状、生理生態、栽培のポイント等
	11 キンギョソウ	生産・消費の現状、生理生態、栽培のポイント等
	12 アスター、ケイトウ	生産・消費の現状、生理生態、栽培のポイント等
	13 球根類	球根類の種類と栽培のポイント
	14 枝物類	枝物類の種類と栽培のポイント
	15 地域特産花き （切花アジサイ、宿根草等）	地域特産切り花の種類と栽培の現状

科　　目	果樹栽培学Ⅰ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	1年後期	木曜	1時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	本県の主要果樹であるリンゴとナシについて、気候風土に適した栽培管理方法について考える。						
概　　要	栽培状況、観光直売など本県のリンゴ、ナシ栽培経営について考え、これからの方向を探りながら栽培の基本技術を学習する。						
テキスト	「新版図集果樹栽培の基礎知識」熊代克巳・鈴木鐵男著（農山漁村文化協会） 「大判図解最新果樹のせん定」農山漁村文化協会編（農山漁村文化協会） 担当職員作成資料						
参考図書	「ひと目でわかる　果樹の病害虫第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	実践学習での観察や栽培管理と理論学習を融合させ、リンゴ、ナシ栽培について熱く語れるようになってください。						

科目内容	講義名	講義内容
	1 リンゴ栽培の歴史	栽培の歴史、本県の特徴について
	2 リンゴの品種特性と開園	主要品種の特徴、開園までの準備
	3 リンゴ開花・結果期の管理	開花・受精のしくみと結実確保、着果管理技術
	4 リンゴ果実肥大・成熟期の管理	夏季管理の目的と方法、着色のしくみ、収穫技術
	5 リンゴの主要病害虫	主要病害虫の発生生態と総合的な病害虫管理方法
	6 リンゴの生理障害・気象災害	生理障害の発生のしくみとその対策、気象災害と対策
	7 リンゴの整枝せん定	普通樹、わい化樹の整枝せん定方法
	8 ナシ栽培の歴史	栽培の歴史、本県の特徴について
	9 ナシの品種特性と開園	主要品種の特徴、開園までの準備
	10 ナシの開花・結果期の管理	開花・受精のしくみと結実確保、着果管理技術
	11 ナシの果実肥大・成熟期の管理	夏季管理の目的と方法、収穫技術と貯蔵方法
	12 ナシの主要病害虫	主要病害虫の発生生態と総合的な病害虫管理方法
	13 ナシの生理障害・気象災害	生理障害の発生のしくみとその対策、気象災害と対策
	14 ナシの整枝せん定	棚栽培における整枝せん定方法
	15 リンゴ、ナシの施肥管理	施肥管理方法について

科　　目	果樹栽培学Ⅱ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	2年前期	木曜	2時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	ブドウ、モモをはじめとする核果類や観光農業において補完的に栽培されている品目について、群馬県の気候風土に適した栽培管理方法を考える。						
概　　要	栽培状況、観光直売など本県のブドウ、核果類、補完品目の栽培経営について考え、これからの方向を探りながら栽培の基本技術について学習する。						
テキスト	「新版図集果樹栽培の基礎知識」熊代克巳・鈴木鐵男著（農山漁村文化協会） 「大判図解最新果樹のせん定」農山漁村文化協会編（農山漁村文化協会） 担当職員作成資料						
参考図書	「ひと目でわかる　果樹の病害虫第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	実践学習での生育の観察や栽培管理と、ここでの理論学習を上手に融合させてブドウ、核果類、補完品目について栽培の理解を深めてください。						

科目内容	講義名	講義内容
	1 ブドウ栽培の歴史	栽培の歴史、本県の特徴について
	2 ブドウの品種特性と開園	主要品種の特徴、開園までの準備
	3 ブドウの開花・結実期の管理と着果管理	開花・結実のしくみと着果管理技術
	4 ブドウの夏季管理と成熟期の管理	夏季の栽培管理の目的とその方法、収穫技術の方法と調整方法
	5 ブドウの主要病害虫	主要病害虫の発生生態と総合的な病害虫管理方法
	6 ブドウの生理障害・気象災害とその対策、施肥管理	生理障害の発生のしくみと対策、気象災害の様子とその防止策、施肥管理の考え方
	7 ブドウの整枝せん定	整枝せん定の基本的な考え方と、せん定方法
	8 モモ・ネクタリン栽培①	栽培の現状と基本栽培技術のポイントについて
	9 モモ・ネクタリン栽培②	
	10 スモモ栽培	
	11 ウメ栽培	
	12 カキ栽培	
	13 ブルーベリー栽培	
	14 イチジク栽培	
	15 オウトウ栽培	

科　　目	GAP実習	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	1	1年	前期	3･4時限
担　　当	専任指導職員、専任講師						
目　　標	国際水準のGAPを学び実践することで、生産技術の習得に加え経営感覚を兼ね備えた人材を育成する。						
概　　要	食品や農作物の安全・安心に対する関心が高まっている中、農業生産現場でも工程管理に基づく品質保証の考えが求められている。農業のグローバル化に対応するため国際水準のGAPを学び、安全・安心な農作物の生産の妨げとなる問題を解決する方法と、適切な工程管理手法を習得する。また、工程管理手法から経営感覚を身に付ける。						
テキスト							
参考図書	「農場管理を”見える化”し、食の安全を確保するJGAP」（日本GAP協会編） 「HACCP導入の手引き」（日本食品衛生協会）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	環境保全を基本に農業の持続性を確立し、農業者の作業の安全や消費者の食の安全を確保するために大切な取り組みである。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	GAPの評価概論	農場の評価制度について	
	農場のリスク管理	(1)リスクの洗い出し (2)リスク検討 (3)評価表の作成及び検討 (4)解決策の検討と実行	
	手順書の作成	(1)作業手順の作成 (2)作業手順の実行と周知	
	GAP実践の評価と検討	(1)現場の評価 (2)再検討	
	GAPの主な視点	(1)周辺環境への配慮 (2)廃棄物の管理 (3)エネルギー等の管理 (4)施設の一般衛生管理 (5)機械・資材等の管理 (6)土・水の安全性 (7)種苗の安全性 (8)農薬の管理 (9)肥料等の管理 (10)識別とトレーサビリティ (11)クレームへの対応 (12)労働安全管理	
	国際水準のGAP	国際水準の評価基準	

科　　目	専門実習Ⅰ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	14	1年前後期	月～金	3・4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	実践を通じて花き類・果樹類の栽培に必要な基礎知識や基本技術を学ぶ。						
概　　要	本県の主要な花き類・果樹類の栽培管理作業を実践することで、それぞれの品目の生理生態や基本的な栽培管理の知識と技術を身に付ける。						
テキスト							
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版） 「新版図集果樹栽培の基礎知識」（農山漁村文化協会） 「ひと目でわかる　果樹の病害虫 第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会） 「群馬県果樹栽培指針」（群馬県農政部）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	実践の中で花き類・果樹類に対しての興味関心を深めて、基礎知識と基本技術を身に付けてください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
共　通	スマート農業の活用	情報通信技術（ICT）の活用による省力化・高品質生産技術の実践	園芸概論 花き園芸学 鉢物栽培学 切花栽培学 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
花　き	県内の主要花き類について（本校栽培品目）	県内で生産されている主要花き類の概要	
	生理生態・生育ステージに応じた栽培環境管理	温度・日射・日長等の環境管理の目的とポイント	
	種まき・挿し木等、花き類の繁殖方法	実生繁殖、栄養繁殖技術の基礎と実際の繁殖方法	
	品質向上・生産安定のための栽培管理	かん水管理のポイントと定植・摘心・整枝等の栽培技術	
	土作りと肥培管理	圃場準備・用土作りの手順と元肥・追肥の目的とポイント	
	収穫・調整・販売	収穫・出荷時期の見極めと調整技術および実際の販売	
	花き類に発生する病害虫と防除	主要病害虫の種類と被害および防除方法の基礎	
果　樹	生育調査、着果管理	樹相診断方法、結実管理技術	園芸概論 果樹園芸学 果樹栽培学Ⅰ 果樹栽培学Ⅱ 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	接ぎ木及び挿し木の基礎	繁殖技術	
	収穫期の判定、果実品質調査	収穫、選果、調整、販売技術	
	主要病害虫の識別、農薬の安全使用、農薬散布	病害虫防除技術	
	土壌管理、土壌改良資材の活用	土壌管理技術	
	施肥、整枝せん定の基礎	施肥管理、整枝せん定技術	
	凍霜害被害の診断と対策	気象災害対策技術	
	経営管理当番	花き・果樹の栽培管理等	

※本講義計画は、1年時に園芸装飾・フラワー装飾実習を選択しない学生が対象

科　　目	専門実習Ⅱ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	11	1年前後期	月～金	3・4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	実践を通じて花き類・果樹類の栽培に必要な基礎知識や基本技術を学ぶ。						
概　　要	本県の主要な花き類・果樹類の栽培管理作業を実践することで、それぞれの品目の生理生態や基本的な栽培管理の知識と技術を身に付ける。						
テキスト							
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版） 「新版図集果樹栽培の基礎知識」（農山漁村文化協会） 「ひと目でわかる　果樹の病害虫 第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会） 「群馬県果樹栽培指針」（群馬県農政部）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	実践の中で花き類・果樹類に対しての興味関心を深めて、基礎知識と基本技術を身に付けてください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
花　き	県内の主要花き類について（本校栽培品目）	県内で生産されている主要花き類の概要	園芸概論 花き園芸学 鉢物栽培学 切花栽培学 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	生理生態・生育ステージに応じた栽培環境管理	温度・日射・日長等の環境管理の目的とポイント	
	種まき・挿し木等、花き類の繁殖方法	実生繁殖、栄養繁殖技術の基礎と実際の繁殖方法。	
	品質向上・生産安定のための栽培管理	かん水管理のポイントと定植・摘心・整枝等の栽培技術	
	土作りと肥培管理	圃場準備・用土作りの手順と元肥・追肥の目的とポイント	
	収穫・調整・販売	収穫・出荷時期の見極めと調整技術および実際の販売	
	花き類に発生する病害虫と防除	主要病害虫の種類と被害および防除方法の基礎	
果　樹	生育調査、着果管理	樹相診断方法、結実管理技術	園芸概論 果樹園芸学 果樹栽培学Ⅰ 果樹栽培学Ⅱ 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	接ぎ木及び挿し木の基礎	繁殖技術	
	収穫期の判定、果実品質調査	収穫、選果、調整、販売技術	
	主要病害虫の識別、農薬の安全使用、農薬散布	病害虫防除技術	
	土壌管理、土壌改良資材の活用	土壌管理技術	
	施肥、整枝せん定の基礎	施肥管理、整枝せん定技術	
	凍霜害被害の診断と対策	気象災害対策技術	
	経営管理当番	花き・果樹の栽培管理等	

※本講義計画は、1年前期に園芸装飾、1年後期にフラワー装飾を選択した学生が対象

科　　目	園芸装飾実習	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	1	1年前期	金曜	3・4時限
担　　当	非常勤講師、専任指導職員						
目　　標	園芸装飾技能士資格取得に必要な知識・技術を習得し、資格取得を目指す。						
概　　要	園芸装飾技能士実技試験に向けて、インドアガーデン（室内装飾）の作成実習を行い、必要な知識と技術を身につける。併せて学科試験に向けた知識も身に付ける。						
テキスト	「園芸装飾技能検定実技試験ガイドブック」日本インドア・グリーン協会編 （日本インドア・グリーン協会） 「園芸装飾技能検定試験・学科例題集」日本インドア・グリーン協会編 （日本インドア・グリーン協会） 担当職員作成プリント						
参考図書	「観葉植物と熱帯花木図鑑」（誠文堂新光社）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	園芸装飾技能士資格取得に向けて、室内装飾の知識と技術を習得しましょう。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	園芸装飾の基礎	園芸装飾技能士に必要な基礎知識・基礎技能	花き園芸学 切花栽培学 鉢物栽培学
	園芸装飾技能士3級または2級 実技試験　　課題制作①	鉢上げ、繁殖等の作業	
	園芸装飾技能士3級または2級 実技試験　課題制作②	インドアガーデン制作作業	

科　　目	フラワー装飾実習Ⅰ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	1年後期	水曜	3・4時限
担　　当	非常勤講師、専任指導職員						
目　　標	フラワーデザインの基礎を学ぶ。 フラワー装飾技能士資格取得のための知識・技術を学ぶ。						
概　　要	フラワーデザインの基礎、花の造形を学び、フラワー装飾技能士試験に向けて必要な知識と技術を身につける。また、実技試験受験に向けてブートニア等の課題制作にも取り組む。						
テキスト	「フラワーデザイナーのための花の教科書」日本フラワーデザイナー協会著（講談社） 「NFD版　よくわかる　フラワー装飾技能検定試験」日本フラワーデザイナー協会（講談社エディトリアル）						
参考図書							
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	生命（いのち）ある花と語り、美しいものを美しいとわかる目と心を育てましょう。						

科目内容

実習内容	習得する知識・技術	関連講義
フラワーデザインとは	花の知識や道具の使用方法等	花き園芸学 切花栽培学 鉢物栽培学
フラワーデザインの基礎技能	水揚げ、植物の扱い方、ワイヤリングやテーピング等の技術	
フラワーデザインの基本パターン	ブートニア・コサージ、花束、アレンジメント等の技術	
フラワー装飾技能士3級実技試験課題制作	リボン、ブートニア、シュトラウス、アレンジの制作技術	
作品展示に向けた制作	文化祭等のイベントでの作品展示に向けた制作を行う。	

科　　目	専門実習Ⅲ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	13	1年前後期	月～金	3・4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	実践を通じて花き類・果樹類の栽培に必要な基礎知識や基本技術を学ぶ。						
概　　要	本県の主要な花き類・果樹類の栽培管理作業を実践することで、それぞれの品目の生理生態や基本的な栽培管理の知識と技術を身に付ける。						
テキスト							
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版） 「新版図集果樹栽培の基礎知識」（農山漁村文化協会） 「ひと目でわかる　果樹の病害虫　第一巻、第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会） 「群馬県果樹栽培指針」（群馬県農政部）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	実践の中で花き類・果樹類に対しての興味関心を深めて、基礎知識と基本技術を身に付けてください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
花　き	県内の主要花き類について（本校栽培品目）	県内で生産されている主要花き類の概要	園芸概論 花き園芸学 鉢物栽培学 切花栽培学 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	生理生態・生育ステージに応じた栽培環境管理	温度・日射・日長等の環境管理の目的とポイント	
	種まき・挿し木等、花き類の繁殖方法	実生繁殖、栄養繁殖技術の基礎と実際の繁殖方法	
	品質向上・生産安定のための栽培管理	かん水管理のポイントと定植・摘心・整枝等の栽培技術	
	土作りと肥培管理	圃場準備・用土作りの手順と元肥・追肥の目的とポイント	
	収穫・調整・販売	収穫・出荷時期の見極めと調整技術および実際の販売	
	花き類に発生する病害虫と防除	主要病害虫の種類と被害および防除方法の基礎	
果　樹	生育調査、着果管理	樹相診断方法、結実管理技術	園芸概論 果樹園芸学 果樹栽培学Ⅰ 果樹栽培学Ⅱ 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	接ぎ木及び挿し木の基礎	繁殖技術	
	収穫期の判定、果実品質調査	収穫、選果、調整、販売技術	
	主要病害虫の識別、農薬の安全使用、農薬散布	病害虫防除技術	
	土壌管理、土壌改良資材の活用	土壌管理技術	
	施肥、整枝せん定の基礎	施肥管理、整枝せん定技術	
	凍霜害被害の診断と対策	気象災害対策技術	
	経営管理当番	花き・果樹の栽培管理等	

※本講義計画は1年前期に園芸装飾を選択した学生が対象

科　　目	専門実習Ⅳ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	12	1年前後期	月～金	3・4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	実践を通じて花き類・果樹類の栽培に必要な基礎知識や基本技術を学ぶ。						
概　　要	本県の主要な花き類・果樹類の栽培管理作業を実践することで、それぞれの品目の生理生態や基本的な栽培管理の知識と技術を身に付ける。						
テキスト							
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版） 「新版図集果樹栽培の基礎知識」（農山漁村文化協会） 「ひと目でわかる　果樹の病害虫　第一巻、第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会） 「群馬県果樹栽培指針」（群馬県農政部）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	実践の中で花き類・果樹類に対しての興味関心を深めて、基礎知識と基本技術を身に付けてください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
花　き	県内の主要花き類について（本校栽培品目）	県内で生産されている主要花き類の概要	園芸概論 花き園芸学 鉢物栽培学 切花栽培学 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	生理生態・生育ステージに応じた栽培環境管理	温度・日射・日長等の環境管理の目的とポイント	
	種まき・挿し木等、花き類の繁殖方法	実生繁殖、栄養繁殖技術の基礎と実際の繁殖方法。	
	品質向上・生産安定のための栽培管理	かん水管理のポイントと定植・摘心・整枝等の栽培技術	
	土作りと肥培管理	圃場準備・用土作りの手順と元肥・追肥の目的とポイント	
	収穫・調整・販売	収穫・出荷時期の見極めと調整技術および実際の販売	
	花き類に発生する病害虫と防除	主要病害虫の種類と被害および防除方法の基礎	
果　樹	生育調査、着果管理	樹相診断方法、結実管理技術	園芸概論 果樹園芸学 果樹栽培学Ⅰ 果樹栽培学Ⅱ 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	接ぎ木及び挿し木の基礎	繁殖技術	
	収穫期の判定、果実品質調査	収穫、選果、調整、販売技術	
	主要病害虫の識別、農薬の安全使用、農薬散布	病害虫防除技術	
	土壌管理、土壌改良資材の活用	土壌管理技術	
	施肥、整枝せん定の基礎	施肥管理、整枝せん定技術	
	凍霜害被害の診断と対策	気象災害対策技術	
	経営管理当番	花き・果樹の栽培管理等	

※本講義計画は、1年後期にフラワー装飾を選択した学生が対象

科　　目	花き栽培実習Ⅰ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	15	2年前後期	月～木	3・4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	本県の主要花き類を中心に、実践的な栽培技術を身に付けるとともに、就農を考えた花き類の栽培にも取り組む。						
概　　要	バラ、キク、シクラメン等、本県で栽培が盛んな花き類を中心に、実践学習を通じて栽培管理や出荷調整技術等を身に付ける。また、就農後に取り組む品目について重点的に実践学習を行う。						
テキスト							
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	様々な花に対し、興味関心を持ち、考え・育てることで、将来につながると思います。実践学習で行う様々な作業、様々な発見や出来事を、楽しみながら実践し、吸収してください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	シクラメンの栽培管理	育苗技術、かん水と生育、栄養診断、肥培管理、葉分け等	園芸概論 花き園芸学 鉢物栽培学 切花栽培学 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	アジサイの栽培管理	育苗技術、栄養診断、花芽の見分け方、土作り、促成技術等	
	ポットカーネーションの栽培管理	摘心方法、肥培管理、開花調節等	
	ポインセチアの栽培管理	植調剤の使用、短日処理等	
	その他鉢物の栽培管理	洋ラン類の植え替え、物日に向けた鉢物栽培	
	パンジーの栽培管理	育苗技術、若苗定植、露地とハウスでの生育、秋出荷と春出荷等	
	春夏の花壇苗の栽培管理	ペチュニア、サルビア、ニチニチソウ等の栽培管理	
	秋冬の花壇苗の栽培管理	ハボタンのわい化剤処理技術と摘心栽培等	
	栄養繁殖系花壇苗の栽培管理	マーガレット、オステオスペルマム等の栽培管理	
	バラの栽培管理	栽培方法と生育・切り花品質、仕立て方、摘心方法、せん定方法等	
	キクの栽培管理	親株管理、挿し芽と育苗技術、整枝方法、生長開花の調節等	
	トルコギキョウの栽培管理	周年栽培技術、種子冷蔵と若苗定植、土作り、ロゼット化等	
	その他切り花類の栽培管理	アスター、ストック、球根類等の栽培管理	
	枝物の栽培と出荷	主要な枝物（ハナモモ等）の概要について	

※本講義計画は、2年前期にフラワー装飾を選択しない学生が対象

科　　目	果樹栽培実習	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	15	2年前後期	月～木	3・4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	本県主要果樹類の栽培技術を習得する。						
概　　要	リンゴ、ナシ、ブドウ等、本県主果樹を中心に栽培管理、出荷調整技術等を身に付ける。また、就農後に取り組む品目について重点的に実践学習を行う。						
テキスト							
参考図書	「新版図集果樹栽培の基礎知識」（農山漁村文化協会） 「大判図解最新果樹のせん定」（農山漁村文化協会） 「群馬県果樹栽培指針」（群馬県農政部）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	日々の生活に楽しみと潤いを与える食べ物として大きな役割を果たしている果樹。開花から収穫、そして剪定までについて年間を通してよく観察してください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	生育調査、新梢管理	樹相診断技術	園芸概論 果樹園芸学 果樹栽培学Ⅰ 果樹栽培学Ⅱ 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	着果量の調節	結実・品質管理技術	
	収穫期の判定方法、果実品質調査	施肥管理技術	
	樹勢とせん定方法、せん定時期と樹勢調節	整枝せん定技術	
	果実熟度の判定	収穫期判定技術	
	市場流通、直売用選果方法	選果品質判定技術	
	流通実態調査、販売の実際	販売技術	
	接木、挿し木方法と接木、挿し木に伴う管理	繁殖技術	
	土壌分析方法と処方箋作成	土壌分析法	
	土壌改良資材の活用方法と土作り	土壌管理技術	
	病害虫発生予察方法	主要病害虫識別	
	農薬の安全使用方法と農薬の効果的使用方法	農薬散布方法	
	病害虫発生予察方法と耕種的防除法	病害虫防除技術	
	凍霜害発生の予測と対策	気象災害対策技術	

科　　目	花き栽培実習Ⅱ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	13	2年前後期	月～木	3・4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	本県の主要花き類を中心に、実践的な栽培技術を身に付けるとともに、就農を考えた花き類の栽培にも取り組む。						
概　　要	バラ、キク、シクラメン等、本県で栽培が盛んな花き類を中心に、実践学習を通じて栽培管理や出荷調整技術等を身に付ける。また、就農後に取り組む品目について重点的に実践学習を行う。						
テキスト							
参考図書	「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会） 「別冊NHK趣味の園芸　園芸入門」（NHK出版）						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	様々な花に対し、興味関心を持ち、考え・育てることで、将来につながると思います。実践学習で行う様々な作業、様々な発見や出来事を、楽しみながら実践し、吸収してください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	シクラメンの栽培管理	育苗技術、かん水と生育、栄養診断、肥培管理、葉分け等	園芸概論 花き園芸学 鉢物栽培学 切花栽培学 植物生理学 園芸育種学 生物工学概論 土壌肥料学 農業経営学 植物病理学 昆虫学 農薬学
	アジサイの栽培管理	育苗技術、栄養診断、花芽の見分け方、土作り、促成技術等	
	ポットカーネーションの栽培管理	摘心方法、肥培管理、開花調節等	
	ポインセチアの栽培管理	植調剤の使用、短日処理等	
	その他鉢物の栽培管理	洋ラン類の植え替え、物日に向けた鉢物栽培	
	パンジーの栽培管理	育苗技術、若苗定植、露地とハウスでの生育、秋出荷と春出荷等	
	春夏の花壇苗の栽培管理	ペチュニア、サルビア、ニチニチソウ等の栽培管理	
	秋冬の花壇苗の栽培管理	ハボタンのわい化剤処理技術と摘心栽培等	
	栄養繁殖系花壇苗の栽培管理	マーガレット、オステオスペルマム等の栽培管理	
	バラの栽培管理	栽培方法と生育・切り花品質、仕立て方、摘心方法、せん定方法等	
	キクの栽培管理	親株管理、挿し芽と育苗技術、整枝方法、生長開花の調節等	
	トルコギキョウの栽培管理	周年栽培技術、種子冷蔵と若苗定植、土作り、ロゼット化等	
	その他切り花類の栽培管理	アスター、ストック、球根類等の栽培管理	
	枝物の栽培と出荷	主要な枝物（ハナモモ等）の概要について	

※本講義計画は、2年前期にフラワー装飾を選択した学生が対象

科　　目	フラワー装飾実習Ⅱ	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	2	2年前期	水曜	3・4時限
担　　当	非常勤講師、専任指導職員						
目　　標	フラワー装飾技能士資格取得に必要な知識・技術を習得し、資格取得を目指す。						
概　　要	フラワー装飾技能士実技試験課題の制作に取り組み、必要な知識と技術を身に付ける。併せて学科試験に向けた知識も身に付ける。						
テキスト	「フラワーデザイナーのための花の教科書」日本フラワーデザイナー協会著（講談社） 「NFD版　よくわかる　フラワー装飾技能検定試験」日本フラワーデザイナー協会編著（講談社エディトリアル）						
参考図書							
評価方法	学業成績評価基準により評価する。						
メッセージ	基礎技能を身につけ、美しい作品を制作するための研究をし、資格取得に向けて最大限の努力をしてください。努力して試験に合格することで、より一層自分に自信が持てるようになるでしょう。また、試験課題に取り組む中で、フラワーデザインを楽しんでください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	花束及びリボン制作 （フラワー装飾技能士3級課題）	実技試験に確実に合格するためのシュトラウス制作技術	花き園芸学 切花栽培学 鉢物栽培学
	バスケットアレンジ制作 （フラワー装飾技能士3級課題）	実技試験に確実に合格するためのアレンジ制作技術	
	ブートニア制作 （フラワー装飾技能士3級課題）	実技試験に確実に合格するためのブートニア制作技術	
	上記以外で資格取得に必要な実践学習 (フラワー装飾技能士2級課題対策含む)	3級取得、2級取得に必要な知識・技術	
	作品展示に向けた制作	文化祭等のイベントでの作品展示に向けた制作を行う。	

科　　目	樹相診断実習	種別		単位数	時間割	
		コース専門	花き・果樹	1	1年前期	3・4時限
担　　当	専任指導職員					
目　　標	樹体管理の基本である樹相診断技術を学ぶ。					
概　　要	樹の樹勢を的確に判断する技術を学ぶ。					
テキスト	「新版図集果樹栽培の基礎知識」熊代克巳・鈴木鐵男著（農山漁村文化協会） 担当職員作成資料					
参考図書						
評価方法	学業成績評価基準により評価する。					
メッセージ	樹勢コントロールを行うためには重要な技術です。理論学習と上手に融合させてください。					

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	花芽・発芽調査	花芽着生状況、発芽状況から樹勢を診断する。	
	新梢調査	新梢伸長停止時期、新梢伸長量などから樹勢を診断する。	
	葉調査	葉の色、大きさ、形、落葉の様子、落葉時期から樹勢を診断する。	
	総合診断	それぞれの調査結果を総合判断し、樹勢を診断するとともに生理障害、病害虫などによる樹勢低下原因を判定する。	

科　　目	病虫害と生理障害の診断実習	種別		単位数	時間割	
		コース専門	花き・果樹	1	1年後期	3・4時限
担　　当	専任指導職員					
目　　標	病害虫の防除や生理障害の治療には原因の診断が正しくなされなければならない。樹体観察による診断方法を学ぶ。					
概　　要	病害虫による被害の様子と生理障害の症状は見分けが難しいものが多くある。防除や治療を行うためには診断が的確に行わなければならない。					
テキスト	「新版図集果樹栽培の基礎知識」熊代克巳・鈴木鐵男著（農山漁村文化協会） 「花卉園芸学の基礎」腰岡政二編著（農山漁村文化協会） 担当職員作成プリント					
参考図書	「ひと目でわかる　果樹の病害虫　第一巻、第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会） 「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会）					
評価方法	学業成績評価基準により評価する。					
メッセージ	診断は重要な技術です。理論学習と上手に融合させ技術を習得してください。					

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	虫害の様子と診断	(1)鱗翅目害虫被害の診断 (2)アブラムシ類被害の診断 (3)カメムシ類被害の診断 (4)ダニ類被害の診断 (5)カミキリムシ類被害の診断	
	病害の様子と診断	(1)糸状菌による病害被害の診断 (2)細菌による病害被害の診断 (3)ウイルスによる病害被害の診断 (4)木材腐朽菌による病害被害の診断	
	生理障害（栄養）の様子と診断	(1)茎葉にあらわれる症状からの診断 (2)花や果実にあらわれる症状からの診断	

科　　目	虫発生予察実習	種別		単位数	時間割	
		コース専門	花き・果樹	1	1年前期	3・4時限
担　　当	専任指導職員					
目　　標	虫による被害の予防、防除の基本となる虫の発生予察方法を学ぶ。					
概　　要	性フェロモン剤を利用した誘引法による予察方法を学ぶ。					
テキスト	「新版図集果樹栽培の基礎知識」熊代克巳・鈴木鐵男著（農山漁村文化協会） 担当職員作成資料					
参考図書	「ひと目でわかる　果樹の病害虫　第一巻、第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会）					
評価方法	学業成績評価基準により評価する。					
メッセージ	防除は予防が重要です。害虫に対しては発生動向を知ることにより予防防除の効果が高まります。理論学習と上手に融合させ技術を習得してください。					

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	トラップの仕組みと設置	性フェロモンによるトラップの設置方法を学ぶ。 (1)トラップの仕組みと管理方法 (2)トラップの設置方法	
	捕殺虫の調査とトラップの管理	捕殺虫の調査 (1)虫の識別 (2)調査方法 (3)トラップの管理（シート、ルアー）	
	調査データの加工と予察方法	調査したデータの処理と予察方法を学ぶ。 (1)データの処理方法 (2)過去データとの比較 (3)データと気象状況の分析 (4)被害の状況との分析 (5)予察	
	害虫被害調査	予察にもとづいた防除法と実際の被害状況から予察の精度を検証する。	

科　　目	病虫害防除実習	種別		単位数	時間割	
		コース専門	花き・果樹	1	1年後期	3・4時限
担　　当	専任指導職員					
目　　標	主要病害虫の発生生態と総合的な病害虫管理方法について学ぶ。					
概　　要	化学的、物理的、耕種的、生物的防除法の実際を学ぶ。					
テキスト	「新版図集果樹栽培の基礎知識」熊代克巳・鈴木鐵男著（農山漁村文化協会） 「花卉園芸学の基礎」腰岡政二編著（農山漁村文化協会） 担当職員作成プリント					
参考図書	「ひと目でわかる　果樹の病害虫　第一巻、第二巻（改訂版）、第三巻（改訂版）」 （日本植物防疫協会） 「原色花の病害虫診断」（農山漁村文化協会）					
評価方法	学業成績評価基準により評価する。					
メッセージ	環境を考えた作物の健康を守る防除方法が重要です。理論学習と上手に融合させ技術を習得してください。					

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	化学的防除方法	(1)農薬の安全使用基準と調合方法 (2)散布者の安全 (3)ドリフトや環境への注意 (4)農薬の選択方法	
	物理的防除方法	(1)病原菌の遮断 (2)被害残さの除去 (3)捕殺、除去 (4)多目的防災網等による遮断	
	耕種的防除方法	(1)抵抗性品種の導入 (2)病虫害発生環境の改善 (3)防風対策による病原菌の飛散と傷口感染の軽減（防風垣、多目的防災網）	
	生物的防除法	(1)中間宿主との関係 (2)天敵の利用	

科　　目	土壌肥料実習	種別		単位数	時間割		
		コース専門	花き・果樹	1	1年後期	火	3･4時限
担　　当	専任指導職員						
目　　標	土壌実験の基礎を学習する。						
概　　要	基礎実験を通して実践への応用および利活用について学習する。土壌調査・土壌診断・施肥設計等作物栽培に関わる基本内容を学習する。						
テキスト	担当講師作成プリント						
参考図書	「新版　土づくりと作物生産」（一般財団法人日本土壌協会）						
評価方法	学業成績評価基準により評価するが、共同作業への積極性等を加味する。						
メッセージ	基礎的内容を幅広く他分野に応用することが重要です。理論学習と融合させ技術を習得してください。						

科目内容	実習内容	習得する知識・技術	関連講義
	土壌診断の目的と土壌採取方法	土壌診断の目的、サンプリング方法	土壌肥料学
	pHとECの測定	測定方法、現場対応指導方法	
	校外研修	土壌診断方法、肥料製造の実際	
	石灰・苦土・カリ・リン酸等の測定	土壌改良の数値管理	
	土壌分析に伴う診断表の作成	現地指導のできる計算根拠	